

財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団 設立趣意書

愛知県内で開催される「につぼんど真ん中祭り」は、市民の自主的な発想から生まれ、年齢、性別及び地域を問わず誰もが参加でき、音楽や踊り等で地域文化を表現する祭りです。

誕生のきっかけは、1996年夏、名古屋の大学生たちが北海道のYOSAKOIソーラン祭りに参加したことでした。彼らは北海道での体験に感銘を受け、「名古屋に踊りで感動を伝えられるような祭りをつくりたい、この感動を名古屋から発信したい」と願い、1999年2月、大学生による「につぼんど真ん中祭り実行委員会」が生まれました。同年8月には、1500人の踊り手の参加と、30万人の来場者を集め、第1回の祭りが開催されました。

その後、行政・企業・メディア・地域社会に幅広く働きかけ、祭りの規模は年々拡大してきました。2006年の第8回祭りでは、名古屋市を中心として県内各地で開催し、2万3千人の踊り手の参加、180万人の来場者を記録しました。祭りの開催による効果は、「まちづくりや観光交流都市づくりへの貢献」、「世代を超えた県民の交流と活力の増進」、「広範なコミュニティ組織の育成」など、多方面によい影響を与えてきました。旧UFJ総合研究所の経済波及効果試算では、第6回祭り開催による直接効果は約45億円、間接効果を合わせると約63億円、付加価値は約37億円とも発表されています。

それぞれの地域文化が集い相互交流することで、新たな文化が生まれるこの祭りは、「につぼんど真ん中祭り文化」という財産であり、この祭りを開催することが、愛知県地域への観光客誘致に大きく寄与するものと考えております。

広く県民からは、この固有の文化が今後も地域の公益財産として大きく成長し、発展していくことが期待されています。こうした世論は、愛知万博の閉幕を契機にさらに高まり、期待に応えることが私たちの使命であると感じています。

こうした背景を踏まえ、私たちは、につぼんど真ん中祭りを開催し、「につぼんど真ん中祭り文化」をより大きく育てていくことにより、世代を超えた県民相互の交流の場を提供するとともに、祭りの開催を通じて愛知県の観光振興を図り、観光交流都市づくりに貢献することを目的として、財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団を設立します。

財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団
設立者 につぼんど真ん中祭り組織委員会
会長 岡田邦彦